

2020年（令和2年） 幾代会 1月の観察会

新宿中央公園から明治神宮

期日 令和2年1月12日（日） 天気 晴れ 気温低い

昼食 新宿NSビル内 29階展望食堂

参加者 越前 太田 岡 羽深 石川 中部 小沢 木村 8名：

下見 越前 中部 2名

コース 中央公園内新宿区エコセンター（犬枇杷など）→熊野神社（ナギ、オガタマノキ）→中央公園内樹木（河津桜、高遠小彼岸桜）→昼食（NSビル内）→参宮橋口明治神宮→明治神宮参拝→社殿内はクスノキが3本神木としてしめ縄がしてある→明治神宮御苑（唯一の湧き水（入園料500円）園内にある湧き水を拝見）→原宿駅へ

中央公園は元淀橋浄水場があった場所である。玉川上水が運んできた水はここに蓄えられて配水されていた。今は新宿区の中央公園として様々なイベントの集合場所になったりしている。中央公園内に植栽された植物はかなり高木になっているが新宿区が樹木の名札を付けて親しみを深められるようにしている。

明治神宮内の森は100年近く前に植栽された約10万本の木がもとになっているという。参宮橋方面からのルートはとても静かなうっそうとした高木の森である。さすがに冬場は高木ということもあってそれらしいものを見ることは難しい。社殿内はごった返す人であり、クスノキの周りは行列をしないと近づけない。湧き水が出るところ（清正井）は公園の唯一の奥深さを感じさせる場所である。30分以上行列し待ちながら直径60cmほどのマスには黒い玉石が敷き詰められ毎分60リットルほどの水が湧き出ている。この湧き水はかつてお茶用として使われていたらしい。今は池の水源として使われ、花しょうぶ園などの原水となっている。

それにしてもなんと人の多いことか。参道には奉納された氷の彫像が並べられていた。

中央公園内での樹木の解説（越前和子）

分類的に香りのある樹木の解説と祭りや神事などに使われる樹木の解説

小沢さんに作って貰った観察会の動画。

<https://yahoo.jp/box/mxDZNI>

